

小牧市ひきこもり実態調査報告

1 実態調査の実施及び概要

■経緯

急激な少子高齢化により「2025年問題」「8050問題」などの問題を抱える中、就職氷河期、リーマンショックといった社会現象を経ることにより、深刻化する『ひきこもり』の問題について、その実態を把握するため、当事者及びその関係者、相談支援機関へ調査を行いました。

■対象

市内在住の15歳以上（中学校卒業後）の『ひきこもり』状態にあると思われる者及びその関係機関

※寝たきり等の身体的な事情によるものを除く

【ひきこもりの定義】

仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態（厚生労働省定義）
（たまたに買い物等に出かけられることを含む）

■調査方法

① 当事者・家族向け調査

《調査方法》

ひきこもり当事者、家族、関係者等あてに、市広報、HP、SNS等で周知し、WEBアンケート回答を募集しました。

《調査期間》

令和3年11月～12月

《調査結果》

回答件数：184件

② 関係機関調査（支援者向け）

《調査方法》

相談業務に関わる関係機関あてに、把握しているひきこもり情報について照会し、回答をお願いしました。

（調査対象）民生委員・児童委員、市内相談支援機関、市職員

《調査期間》

令和3年11月～令和4年1月

《調査結果》

回答件数 136件

2 実態調査の結果

(1) 当事者・家族向け調査

Q1. 回答者はどなたですか。

ひきこもり状態にある方（本人）	75人
同居の家族	60人
別居のご家族	25人
近隣の方	15人
その他※	9人
合計	184人

※その他の具体的な回答 支援機関、親族、交際相手、友達のこども など

Q2. (ひきこもり状態にある方の) 年齢について

Q3. (ひきこもり状態にある方の) 性別について

年代	男	女	不明	計	割合
10代	9人	7人	1人	17人	9%
20代	29人	16人	3人	48人	26%
30代	20人	17人	2人	39人	21%
40代	22人	13人	1人	36人	20%
50代	13人	17人	3人	33人	18%
60代以上	4人	6人	0人	10人	5%
不明	1人	0人	0人	1人	1%
計	98人	76人	10人	184人	—
割合	53%	41%	—	—	—

幅広い年代の方について回答をいただきました。男女比については男性の方がやや多くなっていますが、年代別による性別のばらつきは特にありませんでした。

Q 4. (ひきこもり状態がある方は) ご家族と同居していますか

父母	父母	55 人
	父母・兄弟姉妹	42 人
	父母・祖父母	6 人
	父母・祖父母、兄弟姉妹	5 人
	父母・祖父母・その他	1 人
	父母・子・孫	5 人
兄弟姉妹		3 人
祖父母	祖父母	1 人
	祖父母・兄弟姉妹	1 人
	祖父母・その他	1 人
子・孫	子・孫	10 人
	子・孫・その他	5 人
ひとり暮らし		20 人
わからない		2 人
その他※		27 人
合計		184 人

※その他の具体的な回答

配偶者（内縁含む）19 人、親 2 人、配偶者と子 5 人 以下 知人、親ときょうだい、おば、おじと交際相手

父母を含む家族と同居している方が半数以上を占めています。また、1 割程度の人は「ひとり暮らし」と回答しています。

Q5. ひきこもり状態になられてから、どのくらい経っていますか。

	1年未満	2年～5年	6年～9年	10年～20年	21年以上	不明	計
10代	10人	5人	1人	1人	0人	0人	17人
20代	12人	24人	8人	2人	0人	2人	48人
30代	9人	4人	6人	17人	0人	3人	39人
40代	4人	9人	0人	13人	8人	2人	36人
50代	5人	8人	1人	5人	12人	2人	33人
60代以上	2人	4人	2人	2人	0人	0人	10人
不明	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
計	42人	54人	18人	40人	20人	10人	184人

50代までは、年代が高くなるほど長期化していますが、60代以上の方の年数は短くなっています。60代以上の世代はひきこもりの捉え方や原因が違うということも考えられます。

Q5-2. ひきこもり状態の期間が長くなった理由をお聞かせください。

【Q5で「10～20年」または「21年以上」と回答した方のみ】

※省略

回答の中には、結婚・離婚・退職・転勤（引っ越し）などの転機を挙げている方や、精神疾患を挙げている方も見受けられました。

お寄せいただいた回答は、今後の施策検討に活かしてまいります。

Q6. ひきこもり状態になったきっかけは何ですか（複数回答）。

	不登校		大学受 験	就職の 失敗	職場に なじめ ず	失業・ 退職	疾病 (けが等)	疾病 (精神的 なもの)	性格的 なもの	事故や 犯罪被 害	わから ない	その他
	小・中 学校	高校										
10代	8人	9人	1人	0人	1人	0人	0人	3人	5人	0人	1人	0人
20代	8人	8人	2人	9人	4人	10人	1人	18人	13人	0人	9人	5人
30代	8人	6人	1人	7人	12人	10人	0人	16人	9人	0人	2人	6人
40代	5人	1人	0人	5人	12人	10人	4人	13人	8人	0人	6人	1人
50代	2人	0人	0人	4人	11人	8人	4人	17人	9人	1人	4人	7人
60代以上	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	3人	3人	0人	0人	4人
不明	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人
計	31人	24人	4人	25人	40人	40人	10人	70人	47人	1人	23人	23人

「疾病（精神的なもの）」が一番多くなっており、若い年代では不登校の割合が高くなり、稼働年代では、職場の不適合や失業、退職といった職場に起因する理由が多くなっています。Q5の回答では60代以上の方のひきこもり期間が他の年代と比べ短くなっていますが。原因は退職、失業、病気や性格的との回答などとなっています。

Q7. ふだんどのくらい外出されますか（一番近いものを1つ選んでください）。

年代	趣味の用事の時 だけ外出する	近所のコンビニ などには出かける	自室からは出るが 家から出ない	自室から ほとんどでない	わからない
10代	9人	3人	4人	1人	0人
20代	21人	19人	5人	0人	3人
30代	14人	11人	8人	1人	5人
40代	12人	17人	4人	0人	3人
50代	3人	23人	2人	1人	4人
60代以上	4人	2人	2人	1人	1人
不明	0人	1人	0人	0人	0人
合計	63人	76人	25人	4人	16人

全ての世代を通して「趣味の用事」や「近所のコンビニ」など、必要があれば外出するという回答が多くなっています。「自室からほとんど出ない」との回答は世代による偏りはみられませんでした。

Q8. 現在、相談（支援）を受けていますか。

	受けている	受けていない	受けたい	分からない	合計
10代	5人	7人	4人	1人	17人
20代	16人	21人	8人	3人	48人
30代	10人	18人	7人	4人	39人
40代	3人	23人	6人	4人	36人
50代	6人	18人	7人	2人	33人
60代以上	3人	5人	1人	1人	10人
不明	1人	0人	0人	0人	1人
合計	44人	92人	33人	15人	184人

既に相談を受けている方は約24%に留まっており、相談を受けたいという人を含めても半数には届かない状況です。当事者が望むものに足りないのか、相談につながるまでに何等か課題があるものと考えます。

Q8-2. どのようなところで相談（支援）を受けていますか（複数回答）

【Q8で「受けている」と回答した方のみ】

	行政機関	教育機関	医療機関	民生委員・児童委員	NPO等支援機関	その他
10代	0人	2人	3人	0人	0人	0人
20代	2人	1人	13人	0人	1人	1人
30代	5人	0人	6人	0人	1人	0人
40代	1人	0人	3人	0人	0人	0人
50代	3人	1人	4人	0人	1人	1人
60代以上	2人	0人	1人	1人	0人	0人
不明	1人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	14人	4人	30人	1人	3人	2人

※その他の具体的な内容 過去に利用した就労支援施設 1人 等

医療機関で相談支援を受けている方が多くなっており、次いで行政機関となっています。

Q8-3. 相談（支援）を受けていない理由をお聞かせください。

【Q8で「受けていない」または「受けていないが、受けてみたいと思っている」と回答した方のみ】

当事者（本人）からの回答を抽出した結果は次のとおりでした。

相談（支援）機関への不信、不満	10人
相談（支援）を受ける場所がわからない（よくわからない）・ どうしたらいいかわからない・費用が心配	9人
話すのが苦手、対人恐怖等	4人
めんどくさい	4人
なんとなく、特に理由なし	3人
必要ない	3人
体調が悪い	1人

相談できる場所がわからない、相談、支援先への不満など相談、支援を受けたいがそれを阻む要因があると思われます。

Q9. ひきこもり状態の方に向けて、どのようなサポートがあると良いと考えますか（複数回答）。

	相談窓口	集える場所	社会体験	自宅への訪問	医療機関の紹介	福祉サービス申請支援	生活支援	仕事探し	その他
10代	7人	7人	4人	1人	3人	4人	7人	7人	0人
20代	28人	21人	15人	9人	11人	12人	20人	21人	2人
30代	21人	15人	10人	14人	5人	6人	13人	17人	3人
40代	17人	9人	13人	5人	9人	8人	16人	13人	0人
50代	14人	15人	4人	9人	9人	4人	10人	12人	2人
60代以上	4人	2人	1人	3人	0人	2人	2人	0人	2人
不明	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
計	91人	70人	48人	42人	37人	36人	68人	70人	9人

全ての年代において相談窓口が一番多くなっています。次いで仕事探し、集える場所が多くなっています。

Q10. 現在、具体的な問題や心配ごとがありましたらお聞かせください。

(自由意見)

※省略

たくさんの方から多くのご意見をいただきました。

当事者は、現状を知ってほしい、知られたくない、今後の生活の不安など、さまざまな思いを抱えていらっしゃる事がわかりました。

また、そのご家族、特に親や兄弟姉妹から、当事者との関わり方に苦慮されている様子や、行政等の支援機関への願いが見られました。

※お寄せいただいた回答は、今後の施策検討に活かしてまいります。

(2) 関係機関調査（支援者向け）

回答者

民生委員・児童委員	95人
市職員	8人
各相談事業所	7人
地域包括支援センター	5人
その他	21人
合計	136人

※その他は、介護保険サービス事業所、障害福祉サービス事業所など

Q1. 職務中において、「ひきこもり」状態にある人（以下、「対象者」）がいましたか。

いる（いた）	33人
いない	97人
聞いたことはあるが、詳細は把握していない	6人

Q2. (対象者の) 年齢について【Q1で「いる（いた）」と回答した方のみ】

Q3. (対象者の) 性別について

(注) これ以降に掲載する「ひきこもり」状態にある人のデータは、各関係機関がわかる範囲の情報で回答したものであり、対象者が重複している可能性があります。

年齢	男性	女性	不明	計
15歳（中学生除く）～19歳	2人	1人	1人	4人
20代	5人	1人	0人	6人
30代	6人	5人	0人	11人
40代	10人	2人	0人	12人
50代	15人	1人	0人	16人
60歳～64歳	4人	0人	0人	4人
不明	1人	1人	0人	2人
計	43人	11人	1人	55人

※Q1で「いた」と回答した方が複数人について記入したケースもあり、Q1の回答とは不一致になります。

Q4. (対象者の) 同居する家族について (複数回答可)

父母	父母	17人
	父母祖父母	4人
	父母兄弟姉妹	8人
	父母その他	1人
	父母兄弟姉妹その他	3人
	母祖父母兄弟姉妹	1人
ひとり暮らし		11人
配偶者		2人
祖父母	祖父母	2人
	祖父母その他	1人
兄弟姉妹		2人
子孫		3人

父母兄弟姉妹その他との同居の中には、はなれで一人暮らしという回答もありました。また、ひとり暮らしの中には、最近になって親が亡くなったという回答もありました。

Q5. ひきこもり期間について

性別	(6か月以上) 1年未満	2年～ 5年	6年～ 9年	10年～ 20年	21年以上	不明
男性	6人	5人	5人	13人	5人	9人
女性	0人	1人	2人	3人	3人	2人
不明	0人	0人	0人	0人	0人	1人
計	6人	6人	7人	16人	8人	12人

性別	(6か月以上) 1年未満	2年～ 5年	6年～ 9年	10年～ 20年	21年以上	不明
15歳～19歳	0人	3人	0人	0人	0人	1人
20代	2人	2人	0人	1人	0人	1人
30代	0人	0人	3人	7人	0人	1人
40代	0人	0人	0人	3人	7人	2人
50代	3人	1人	3人	3人	1人	5人
60歳～64歳	1人	0人	1人	2人	0人	0人
不明	0人	0人	0人	0人	0人	2人
計	6人	6人	7人	16人	8人	12人

年代が高くなるほど長期化していますが、50代以降にひきこもりが始まった方もいます。

Q6. ひきこもりのきっかけ（複数回答）

年齢	不登校		大学 受験	就職 の失 敗	職場 にな じめ ず	失 業・ 退職	疾病		性格 的な もの	事故犯 罪被害	不明 その他
	小中	高校					けが 等	精神 的			
15歳～ 19歳	3人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
20代	1人	0人	0人	2人	1人	3人	0人	1人	1人	0人	2人
30代	1人	1人	0人	2人	3人	2人	0人	1人	3人	0人	2人
40代	6人	0人	0人	2人	2人	2人	0人	1人	1人	0人	6人
50代	1人	0人	0人	1人	6人	4人	3人	7人	4人	0人	3人
60歳 ～64歳	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	1人
不明	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人
計	12人	1人	0人	7人	12人	11人	5人	12人	9人	0人	16人

※その他には大学になじめず、家族との不仲という意見がありました。

不登校では、小中学校が高校よりも多くなっています。また、就職の失敗や職場でなじめない、失業退職といった仕事にまつわるきっかけが多くなっています。

Q7. ひきこもり度合い

年齢	たまに外出 を見かける	コンビニ 程度は外 出可能	見たことな いが、生活 音は感じる	窓も締め切 り、居る感 じがしない	不明	計
15歳～19歳	0人	0人	1人	1人	2人	4人
20代	3人	3人	0人	0人	0人	6人
30代	2人	4人	4人	1人	0人	11人
40代	5人	3人	1人	1人	2人	12人
50代	5人	4人	4人	2人	1人	16人
60歳～64歳	2人	2人	0人	0人	0人	4人
不明	0人	0人	0人	1人	1人	2人
計	17人	16人	10人	6人	6人	55人

外出している方が半数を超えていますが、10代では外出姿がみられていないようです。

Q8. 対象者の情報をどのように把握したか（複数回答可）

本人からの相談	2人
家族からの相談	20人
近所からの情報	22人
職務上の訪問等で確認	6人
その他	5人
合計	55人

Q9. 問題点をあげるとしたら（複数回答可）

年齢	家庭内暴力等 が心配	親族の高 齢化	俳諧騒音 等不審な 行動	経済的困 窮	就労先が ない	その他
15歳～19歳	0人	0人	0人	0人	2人	2人
20代	0人	0人	0人	2人	3人	4人
30代	2人	5人	1人	3人	5人	1人
40代	2人	9人	0人	4人	3人	1人
50代	2人	9人	1人	7人	8人	5人
60歳～64歳	0人	1人	0人	1人	0人	2人
不明	0人	1人	0人	0人	0人	1人
合計	6人	25人	2人	17人	21人	16人

※その他の意見としては、家族が亡くなった後などの将来への不安や社会への適応などの意見がありました。

就労先がないなど、経済的に困窮している方が半数以上になっています。40代、50代では親も高齢化が問題になっています。

Q10. 可能な範囲で、対象者の情報等をご記入ください。

（多機関との回答の重複を確認するために使用し、外部公表や対象者アプローチは一切行わないもの）

※省略

Q11. ひきこもり状態の方に向けてどのような支援が必要と考えますか（複数回答可）

気軽に相談できる窓口	97人
悩みを話し合い、集える場所	65人
生活の支援	50人
福祉サービスの申請支援	46人
自宅への訪問	44人
仕事探しの支援	40人
医療機関の紹介	38人
社会体験の場	25人
その他	12人

「気軽に相談できる場所」や「悩みを話し合い集える場所」という意見が多くありました。その他の意見の中にも「課題が多岐にわたるため総合的やワンストップで相談支援が受けられる場所」、「家族が支援を受けたり集える場所」といった意見がありました。また、SNSの活用といった意見もありました。

Q12. その他、『ひきこもり』問題に関して皆さまの立場でご意見等ありましたら自由にご記入ください。

（自由意見）

たくさんの方から多くのご意見をいただきました。

支援者として、当事者やその家族へのアプローチについて困難を感じていることや関係機関同士での連携の必要性、個人情報取り扱いの難しさなどが挙げられており、支援者が相談する専門の窓口を求める声も見受けられました。

※お寄せいただいた回答は、今後の施策検討に活かしてまいります。

3 実態調査のまとめ

(1) 当事者・家族向け調査

今回の調査には、当事者から多くの意見が寄せられ、関心の高さが感じられました。国が公表しているひきこもりの発症比から考えると、回答数の割合は決して高くはないと考えられることから、今回の各項目における指標については、ひきこもりの典型というよりは、一定程度関心のある層の意見の反映ととらえるのが妥当ではないかとも考えます。

行政などに望むこととしては、相談できる場所や居場所、支援が受けられる場所といった、きっかけとなる機会についてものが多くありました。相談窓口については、既に既存の相談窓口がありますが、情報がうまく伝わっていないことや、相談からの支援体制が十分ではないのではないかと考えられます。

市としては、今後も情報発信に努めるとともに、相談支援体制の一層の充実と、集える場所といった現在不足している資源についても整備していく必要があるものと考えます。

(2) 関係機関調査（支援者向け）

関係機関調査については、民生委員・児童委員をはじめ多くの支援者にご協力をいただきました。ひきこもり状態にある方については回答者の把握している情報に基づいているため、対象者が重複している等単純に数値で判断することは難しいですが、年代が高くなるほどひきこもり期間が長期化するなど、当事者・家族向け調査の結果と同様の傾向もみられました。

必要と考える支援についても、支援機関同士の連携、集える場所の設置、支援機関が相談できる専門機関の必要性など、多くの意見をいただきました。

4 資料

(1) 当事者・家族向け調査 調査用紙

★当事者・家族向け★ (○…1つ選択、□…複数選択)

ひきこもり状態にある方についてのアンケート

本市における『ひきこもり』状態にある方の実態を把握するため、アンケートを実施します。
ご協力をお願いいたします。

■対象者■

市内在住の15歳以上(中学生除く)の『ひきこもり』状態にあると思われる方と
その家族(関係の深い方)

■『ひきこもり』の定義■

仕事や学校にいかず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに6か月以上続けて
自宅にひきこもっている状態(たまに買い物等に出かけられることを含む)

■実施期間■

令和3年11月15日から令和3年12月15日まで



←
QRコードから
回答できます

Q1. 回答者はどなたですか。必須

- ひきこもり状態にある方(本人) 同居のご家族 別居のご家族
 近隣の方
 その他(具体的な内容: _____)

Q2. (ひきこもり状態にある方の) 年齢について 必須

- 15~19歳 20~29歳 30~39歳 40~49歳
 50~59歳 60~64歳 65歳以上 わからない

Q3. (ひきこもり状態にある方の) 性別について 必須

- 男性 女性 答えたくない わからない

Q4. (ひきこもり状態がある方は) ご家族と同居していますか(複数回答可)。必須

- 父母 兄弟姉妹 祖父母 子・孫
 ひとり暮らし わからない
 その他(具体的な内容: _____)

Q 5. ひきこもり状態になられてから、どのくらい経っていますか。 **必須**

- (6か月以上) 1年未満 2～5年 6～9年
 10～20年 →Q 5-2へ 21年以上 →Q 5-2へ
 わからない

【Q 5で「10～20年」または「21年以上」と回答した方のみお答えください】

Q 5-2. ひきこもり状態の期間が長くなった理由をお聞かせください。

(可能な範囲でご記入ください)

Q 6. ひきこもり状態になったきっかけは何ですか (複数回答可)。 **必須**

- 不登校 (小学校・中学校) 不登校 (高校) 大学受験
 就職の失敗 職場になじめず 失業・退職
 疾病 (けが等) 疾病 (精神的なもの) 性格的なもの
 事故や犯罪被害 わからない
 その他 (具体的な内容: _____)

Q 7. ふだんのくらい外出されますか (一番近いものを1つ選んでください)。 **必須**

- 趣味の用事の時だけ外出する 近所のコンビニなどには出かける
 自室からは出るが、家からは出ない 自室からほとんど出ない
 わからない

Q 8. 現在、相談 (支援) を受けていますか。 **必須**

- 受けている →Q 8-2へ 受けていない →Q 8-3へ
 受けていないが、受けてみたいと思っている →Q 8-3へ
 わからない

【Q 8で「受けている」と回答した方のみお答えください】

Q 8-2. どのようなところで相談 (支援) を受けていますか (複数回答可)。 **必須**

- 行政機関 (市役所、保健センターなど) 教育機関 (学校など)
 医療機関 (病院など) 民生委員・児童委員 NPOなどの支援機関
 その他 (具体的な内容: _____)

【Q 8で「受けていない」または「受けていないが、受けてみたいと思っている」と回答した方のみお答えください】

Q 8-3. 相談 (支援) を受けていない理由をお聞かせください。

(可能な範囲でご記入ください)

Q 9. ひきこもり状態の方に向けて、どのようなサポートがあると良いと考えますか
(複数回答可)。

- 気軽に相談できる窓口 悩みを話し合い、集える場所
社会体験の場 自宅への訪問 医療機関の紹介
福祉サービスの申請支援 生活の支援 仕事探しの支援
その他 (具体的な内容 : _____)

必須

Q 10. 現在、具体的な問題や心配ごとがありましたらお聞かせください。

(自由にご記入ください)

Q 11. その他、行政に対してご意見等ありましたらお聞かせください。

(自由にご記入ください)

ご協力ありがとうございました。

～知っていますか？ 『ひきこもり』に関する相談窓口～

保健師がお話を伺います。

ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。

★小牧市保健センター

(小牧市常普請一丁目318 TEL 0568-75-6471)

また、愛知県内の保健所や精神保健福祉センターにおいても、ひきこもりに関する相談をお受けしています。

★愛知県内のひきこもり相談窓口について

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/hikikomori-madoguchi.html>

(2) 関係機関調査（支援者向け） 調査用紙

★関係機関向け★（○…1つ選択、□…複数選択）

ひきこもり状態にある方についての実態調査

本調査は、関係機関のご協力を得て、ひきこもり状態にある方の全体像を把握し、今後の施策の基礎資料とするものです。

お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

なお、日頃の活動等の中で把握されているひきこもり状態にある方の情報をお聞きするものであり、新たな聞き取りや訪問などを行っていただく必要はありません。

調査対象

令和元年度以降に対応した事例について

**市内在住の「ひきこもり」状態にある方で、
15歳（中学生除く）～64歳以下**

※寝たきり等の身体的な事情によるものを除く

QRコードから
回答できます↓



～「ひきこもり」の定義～（厚生労働省：政策レポート（ひきこもり施策について）

仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんど
せずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態

（たまに買い物等に出かけられることを含む）

～回答者の情報～

【回答者の氏名】

【所属】

○民生委員・児童委員

（南部、中部、西部、味岡、篠岡、北里）

○地域包括支援センター

（南部、小牧、味岡、篠岡、北里）

○各相談事業所

（事業所名： _____）

○市職員

（地域包括ケア推進課、障がい福祉課、保健センター、子育て世代包括支援センター、
福祉総務課、その他： _____）

○その他（ _____）

～調査内容～

Q1. 職務中において、「ひきこもり」状態にある人（以下、「対象者」）がいましたか。

- いる（いた） いない →Q11へ
聞いたことはあるが、詳細は把握していない →Q11へ

【Q1で「いる（いた）」と回答した方のみ】 ※対象者についてわかる範囲で回答ください。

Q2. (対象者の) 年齢について

- 15歳（中学生除く）～19歳 20代 30代
40代 50代 60～64歳 不明

Q3. (対象者の) 性別について

- 男性 女性 不明

Q4. (対象者の) 同居する家族について（複数回答可）

- 父母 兄弟姉妹 祖父母 子・孫 ひとり暮らし 不明
その他（具体的な内容： _____)

Q5. ひきこもり期間について

- （6か月以上）1年未満 2～5年 6～9年
10～20年 21年以上 不明

Q6. ひきこもりのきっかけ（複数回答可）

- 不登校（小学校・中学校） 不登校（高校） 大学受験
就職の失敗 職場になじめず 失業・退職
疾病（けが等） 疾病（精神的なもの） 性格的なもの
事故や犯罪被害 不明
その他（具体的な内容： _____)

Q7. ひきこもり度合い

- たまに外出を見かける コンビニ程度は外出可能
見たことないが、生活音は感じる 窓も締め切り、居る感じがしない 不明

★関係機関向け★（○…1つ選択、□…複数選択）

Q8. 対象者の情報をどのように把握したか（複数回答可）

- 本人からの相談 家族からの相談 近所からの情報 職務上の訪問等で確認
その他（具体的な内容： _____)

Q9. 問題点をあげるとしたら（複数回答可）

- 家庭内暴力等が心配 親族の高齢化 徘徊・騒音等不審な行動
経済的困窮 就労先がない
その他（具体的な内容： _____)

Q10. 可能な範囲で、対象者の情報をご記入ください。

（他機関との回答の重複を確認するために使用し、外部への公表や対象者へのアプローチは一切行いません。）

【すべての回答者向け】

Q11. ひきこもり状態の方に向けてどのような支援が必要と考えますか（複数回答可）

- 気軽に相談できる窓口 悩みを話し合い、集える場所
社会体験の場 自宅への訪問 医療機関の紹介
福祉サービスの申請支援 生活の支援 仕事探しの支援
その他（具体的な内容： _____)

Q12. その他、『ひきこもり』問題に関して皆さまの立場でご意見等ありましたら自由にご記入ください。

以上で、実態調査は終了です。

ご協力ありがとうございました。